

西大路七福社ご利益めぐり

四十年の歴史に
思いを馳せて



わら天神宮

平野神社

熊野神社衣笠分社

大將軍八神社

西院春日神社

若一神社

吉祥院天満宮

に にこやかに
し 朱印を受けて
お お参りしましょう
お おごそかな
じ 神社があります

各神社へ ご参拝の際は、
マスク着用をお願いします
また、他のご参拝の方との
適切な距離をお取り下さい

年も新たに幸せを願って本年も
益々豊かな生活を招く西大路沿線に
祀られたあらたかな神々のご利益を
お授かり下さい



西大路七福祉 ご利益めぐりについて……	3
わら天神宮……	5
平野神社……	7
熊野神社衣笠分社……	9
大將軍八神社……	11
西院春日神社……	13
若一神社……	15
吉祥院天満宮……	17
コース例・地図……	19
各社詳細地図……	21

〈開催期間〉

元旦より二月末日迄ですが
数に限りがありますので無
くなり次第終了になります。
朝九時より夕方五時まで

〈朱印料〉

各社 五百円
各神社にて専用色紙を
ご用意しております。

〈記念品〉

色紙に七社全部の朱印を
受けられた方は、参拝記念の
「干支置物」を授与いたします。
七社目の神社にて引換券に氏名・
祈願事を記入してご提示下さい。

平成十年の色紙（見本）



干支置物（見本）



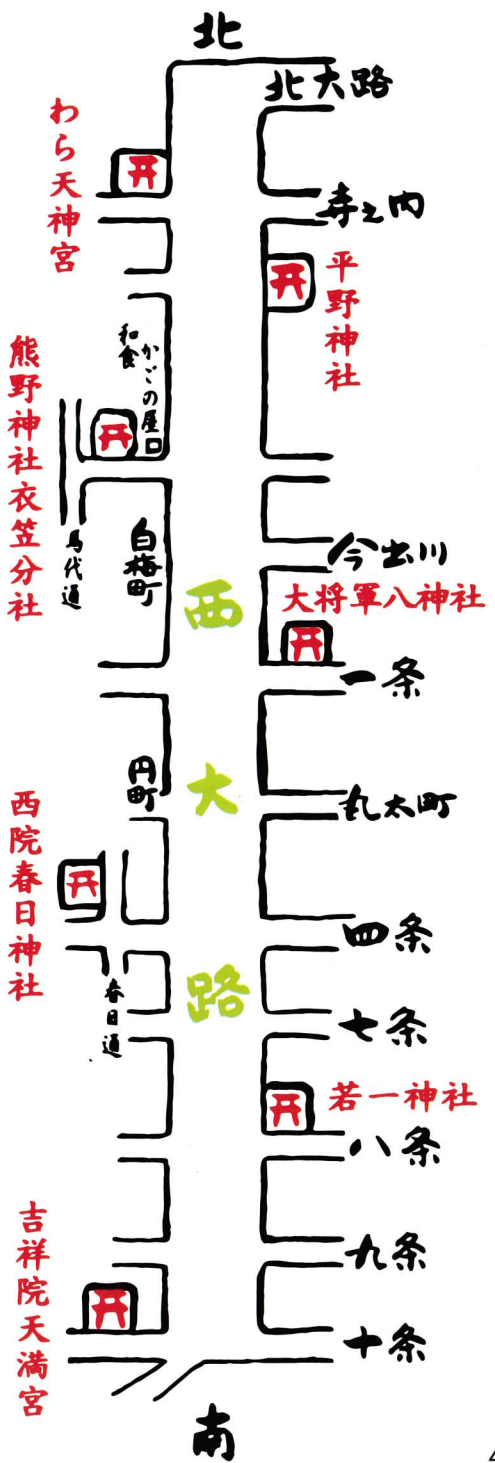
西大路七福社ご利益めぐりについて

当時、有名神社が集積する東大路界隈にくらべ余り知られていない西大路界隈の歴史を多くの人に知ってもらおうと、昭和五十八年（一九八三）から始まり、令和四年で四十回目を迎えることができました。

西大路は、京都市の西域を金閣寺の前から十条通りまで南北に通っており東大路と対になる大通りです。平安時代の西大路は、平安京の中心である朱雀大路に程近く、野寺小路と呼ばれ道幅十二メートルにもなる都のメインストリートでした。

この西大路をはさんだ東西両側に、古くからの歴史と由緒・格式をもつ神社が七社あります。初春にこれら七社に参拝をして朱印を受ける行事が「西大路七福

社ご利益めぐり」です。全行程約七キロの西大路をまっすぐ進む比較的わかりやすい順路で、ゆっくり歩いても一日で参拝できることや、学問・安産から開運出世・延命長寿までの人生の節目ふしめを守ってくださる神様のご利益がいただけます。健やかで幸多き一年でありますようお祈り申し上げます。



わら天神宮

〔京都市北区衣笠天神森町十〕
〔〇七五・四六一・七六七六〕

安産・子授け・縁結び

わら天神宮の正式名称は「敷地神社」といい、その起源は北山の神という山を神格化した存在でした。

天長八（八三一）年、この地に氷室が設けられることとなり、その夫役として加賀国の人々が移住してきました。彼らは移住にあたり崇敬していた菅生石部神すこういそべのかみの分霊を勧請し、ご祭神にその御母木花このはな開耶姫命さくやひめのみことと定め、北山の神の西隣に祀りました。

応永四（一三九七）年、足利三代将軍義満による北山第後の鹿苑寺（金閣寺）の造営にあたり参拝に不便となったことから、両社を合祀して現在地へ遷座、



社号を菅生石部神社の通称である「敷地神社」としました。

その後は応仁の乱などで一時荒廃しましたが、仮社殿を設けて御神徳を受け継ぎ、弘化四（一八四七）年の大補修、昭和十（一九三五）年の改修を経て現在に至ります。

当社では古来より稲わらで編んだ籠で神饌を捧げており、やがて抜け落ちたわらを、安産を願う妊婦さんが持ち帰るようになりました。のちにそのわらを切り取り、安産のお守りとして妊婦さんに授与するようになったのです。そのわらのお守りの珍しさから「わら天神宮」という通称名が広まり、定着しました。



平野神社

【京都市北区平野宮本町一】
【〇七五・四六一・四四五〇】

開運・良縁・心願成就



「続日本記」によると、奈良時代末期の延暦元年（七八二年）、平城京の田村後宮に祀られていました。桓武天皇による平安京遷都に伴って大内裏近くに移し祀られたのが平野神社の創建になると考えられています。「延喜式」によれば、全国で唯一の皇太子御親祭が定められた神社です。中世には荒廃しましたが、江戸時代寛永年間に平氏嫡流の公卿、西洞院時慶により再建されました。

再建された本殿は、第一殿と第二殿、第三殿と第四殿がそれぞれ合いの間を挟んで連結する形式を採っており、「平野造」と称される当社独特の形式で国指定

重要文化財です。中門前に建てられている拝殿は、慶安三年（一六五〇年）に東福門院によって寄進されたものといい、京都府指定文化財です。

当社は古くから桜の名所として知られ、境内には約六十種四百本の桜があります。平安期には貴族たちがさまざまに桜を楽しみ、江戸期には庶民にも夜桜が許され、「平野の夜桜」は京都を代表する花見の名所となりました。平野神社原木の桜も多く、約一ヶ月半という長い期間、各種の桜を愛でることができます。



熊野神社 衣笠分社

〔京都市北区小松原北町一三五〕縁結び・安産
〔〇七五・四六一・七八三六〕病氣平癒



熊野神社衣笠分社は京都熊野神社（東大路丸太町西北角鎮座）の分社です。京都熊野神社は、弘仁二年（八一）に修験道の日圓上人がこの地に紀州熊野大神を勧請したのが始まりで、当時は白川熊野社または熊野権現社と言われておりました。寛治四年（一〇九〇）、白河上皇の勅願により聖護院が創建されると、その鎮守社となりました。応永三年（一三九六）には足利義満公により広大な社地を寄進されましたが、応仁の乱の戦乱により荒廃し、僅かに小祠を残すのみとなりました。

江戸時代の寛文六年（一六六六）、聖護院宮道寛法親王により再建され、天保六年（一八三五）には下鴨神社旧本殿が移築され

て大修造が行われました。現在の本殿はその際のもので、代表的な流れ造りの社殿で、礎石はすべて白川石材を重積したものであり、屋根檜皮は光格上皇の寄進によるものです。明治維新以後は神仏分離により熊野神社と改称されました。

当熊野神社衣笠分社の鎮座地には、朝廷に仕えた典薬医の屋敷がありました。彼は孝明・明治・大正の三天皇の診療に携わり、晩年は京都に戻り漢方医院を開業しました。熊野神社を崇敬すること殊の外篤く、没後にその屋敷地の寄進を受け社殿を設けて、この地でも熊野大神をお祀りしています。

◎本社鎮座地
京都熊野神社
京都市左京区聖護院山王町四三



大將軍八神社

〔京都市上京区一条御前通西入ル三丁目西町四八〕
〔一〇七五・四六一・〇六九四〕

方除け
厄除け



当社は延暦十三年（七九四）の平安遷都の際、桓武天皇の勅願によって、奈良春日山麓より大將軍神を大内裏の北西角（陰陽道の天門）の地に勧請し、国家守護を祈念したのが始まりです。

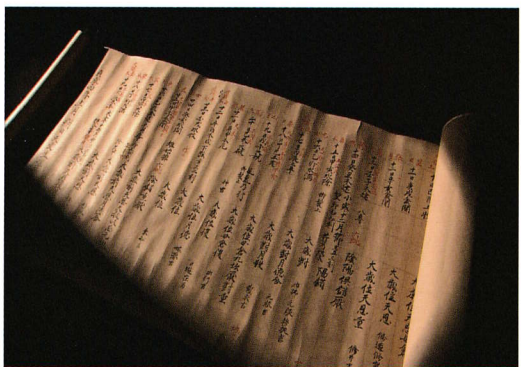
大將軍神とは、陰陽道・道教の信仰による方位を司る星神であり、この神の方位を犯すと厳しい咎めを受けるというので、古来非常に恐れられてきました。

社号は初め、陰陽道のお堂として大將軍堂と称され、応仁の乱の荒廃後に神社として復興。江戸時代中期に大將軍神を始め、曆の神八将神と素戔鳴尊とその御子八神が習合。さらに聖武・桓武両天皇

を共に祀りし、大將軍八神宮と改称し、明治以降に現名称となりました。

平安朝以来、王城鎮護の神として篤い崇敬を受け、現在も建築・移転・婚姻・旅行・交通など毎日の生活においてあらゆる災厄から人々を守護する方除け・厄除けの神として信仰されています。江戸時代には、方除け厄除け参りが流行し、その時期に建立された天保十一年（一八四〇）の標石は現在も門前に残っています。

宝物館「方徳殿」には天球儀や貴重な天文曆道の資料を所蔵し、また平安中期から鎌倉時代作の約八十体の神像が納められ、重要文化財に指定されています。



西院春日神社

【京都市右京区西院春日町六一】 病氣平癒・厄除け
 【〇七五・三一二・〇四七四】 旅行安全



御祭神と御神徳

建御賀豆智命

伊波比主命

天児屋根命

天美津玉照比売命

武術の神

武術の神

学問の神

美徳の神

当社は、平安時代天長十年（八三三）
 淳和天皇のおぼしめしにより、奈良春日
 大社から御分霊を迎えられました。淳和
 天皇の皇女崇子内親王が疱瘡（天然痘）
 を患われた際、当社に祈願をされたところ
 内親王の身代わりとして神前の石に疱
 瘡が移り、内親王がご快復されてから
 病氣平癒・災難身代わりの神とされ、



この石は「疱瘡石」として毎月一日・
 十一日・十五日に特別に公開されます。
 また、御祭神は藤原氏の御祖先にあ
 たり、平安時代以来藤原氏が崇敬され、
 四月の藤花祭には御神前に貞明皇后
 ご由緒による京都御所・飛香舎（藤壺）
 をはじめ近衛家・九條家・冷泉家・
 山科家等藤原氏一族の公家旧家より
 奉納の藤花が披露されます。
 境内の還来神社は「旅行安全祈願」
 境外の別宮 西四条齋宮 野々宮神社
 は「最古の野々宮聖地跡」であり
 「女性の守護神」として信仰されてい
 ます。



若一神社

〔京都市下京区七条御所ノ内本町九八〕
〔〇七五・三一三・八九二八〕

開運・出世



若一神社のあるこの地は、平清盛公が六波羅在任の頃、開明的な公が西国街道と山陰道の交わる重要な要衝であり清らかな水の湧く風光明媚なこの地に別邸を建て、西八条殿と称しました。

仁安元年（一一六六）に紀州熊野に詣でた清盛公に、「昔、威光上人が人々の救済のために勧請した熊野権現のご分霊若一王子のご神体が西八条の土中に埋まっているので、掘り出して祀れ」とのお告げがありました。帰京の後、邸内を探した清盛公は、お告げの通り若一王子のご神体を発見しました。

社殿を造って西八条殿の鎮守とし開運出世を祈った公は、早くも翌年、太政大

臣に任せられました。昇進を感謝して清盛公自らが植えたのが、現在も西大路通沿いにそびえる大楠です。その後も、清盛公の勢威は益々伸びたことから、現在も開運出世のご利益のある神様として尊崇を集めています。

境内にある末社の寿命社は、天正年間（一五七三〜一五九二）に播磨の高砂神社から勧請し、能「高砂」で知られる高砂尉と姥をご祭神として、夫婦円満・子孫繁栄・延命長寿にご利益があります。他にも、市杵島姫命をご祭神とし芸能・音楽・福運にご利益がある弁財天社、松尾大神を勧請した松尾社、稲荷大神を勧請した稲荷社、当神社の神職及び総代等を祀る祖霊社があります。



吉祥院天満宮

【京都市南区吉祥院政所町三】
 【〇七五・六九一・五三〇三】

ちえと能力開発



吉祥院天満宮は、ご祭神の菅原道真公
 がお亡くなりになって三十一年目に、道
 真公誕生の地に朱雀天皇の勅命により創
 建された最初の天満宮です。

この地は、桓武天皇による平安遷都の
 際、道真公の曾祖父ふるひじ古人卿、祖父清公卿
 がお供して帝より領地として賜ったとこ
 ろです。清公卿が遣唐使として唐へ向か
 う途中、嵐に遭遇しながらも吉祥天女の
 靈験により難を逃れ、無事使節の任を果
 たされました。帰朝後、吉祥天女の像を
 刻んで自邸内に祀られました。これが地
 名吉祥院の由来です。

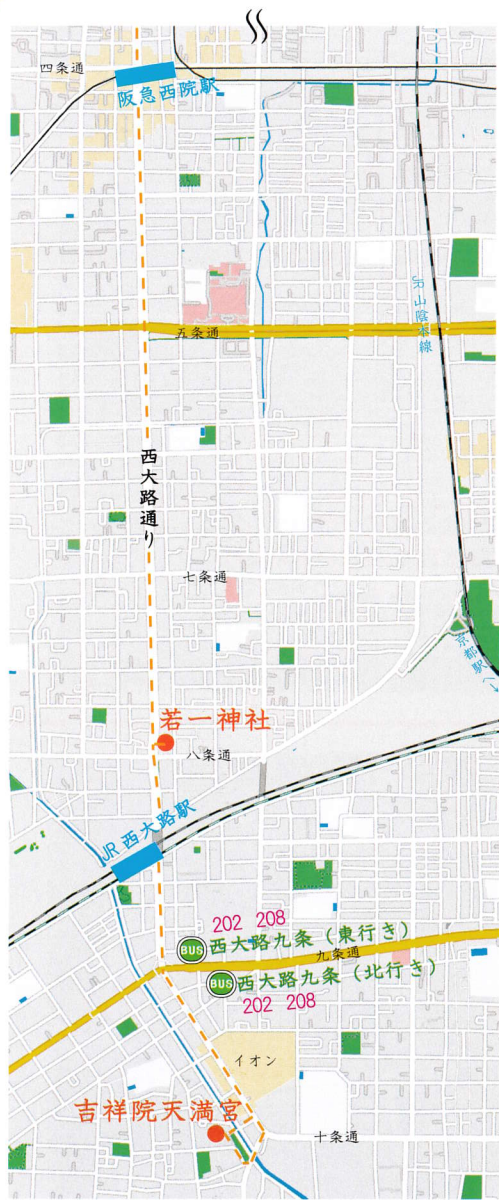
承和十二年（八四五）に是善卿の子とし

て誕生された道真公は、幼少の頃から
 学才に秀で、文章生に合格されるまで
 はこの吉祥院の地に住まわれました。
 その後も寸暇を惜しんで勉学に励まれ
 三十三才の若さで文章博士になられた。
 延喜三年（九〇三）任地の太宰府にて、
 京を想い、五十九才の誠心の生涯を閉
 じられました。

境内には、道真公のへその緒を埋め
 たと伝わる「胞衣塚」をはじめ、少年
 時代に習字に使用したという「硯の水」
 や参勤のときに姿を映されたと伝わる
 「鑑の井」などがあります。

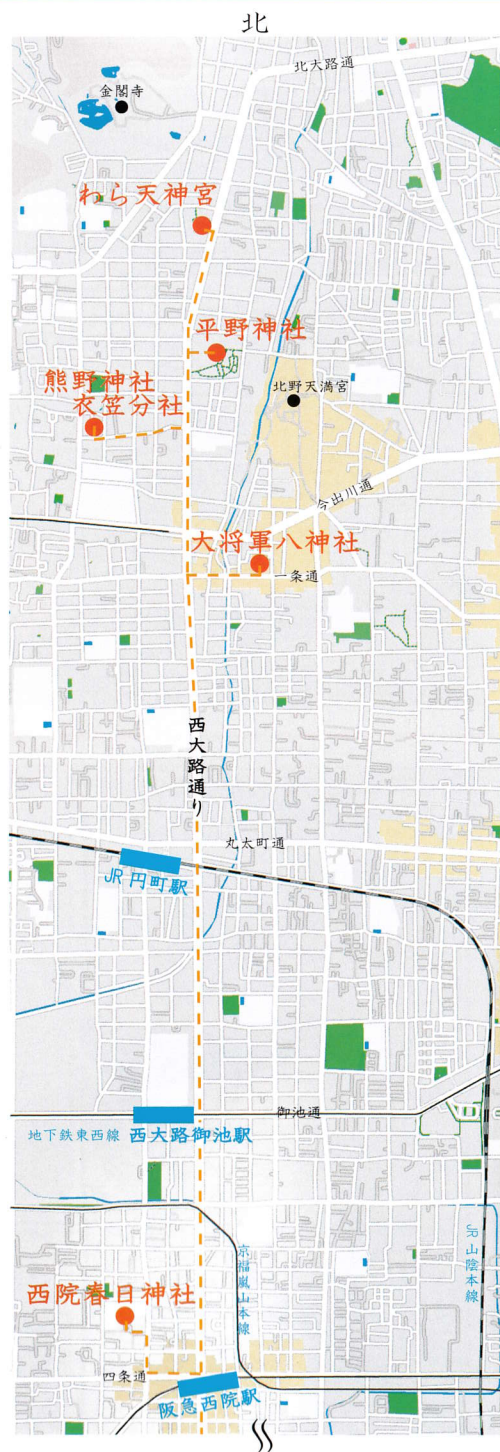
令和九年には「菅公千百二十五年
 萬燈祭」斎行の予定であります。



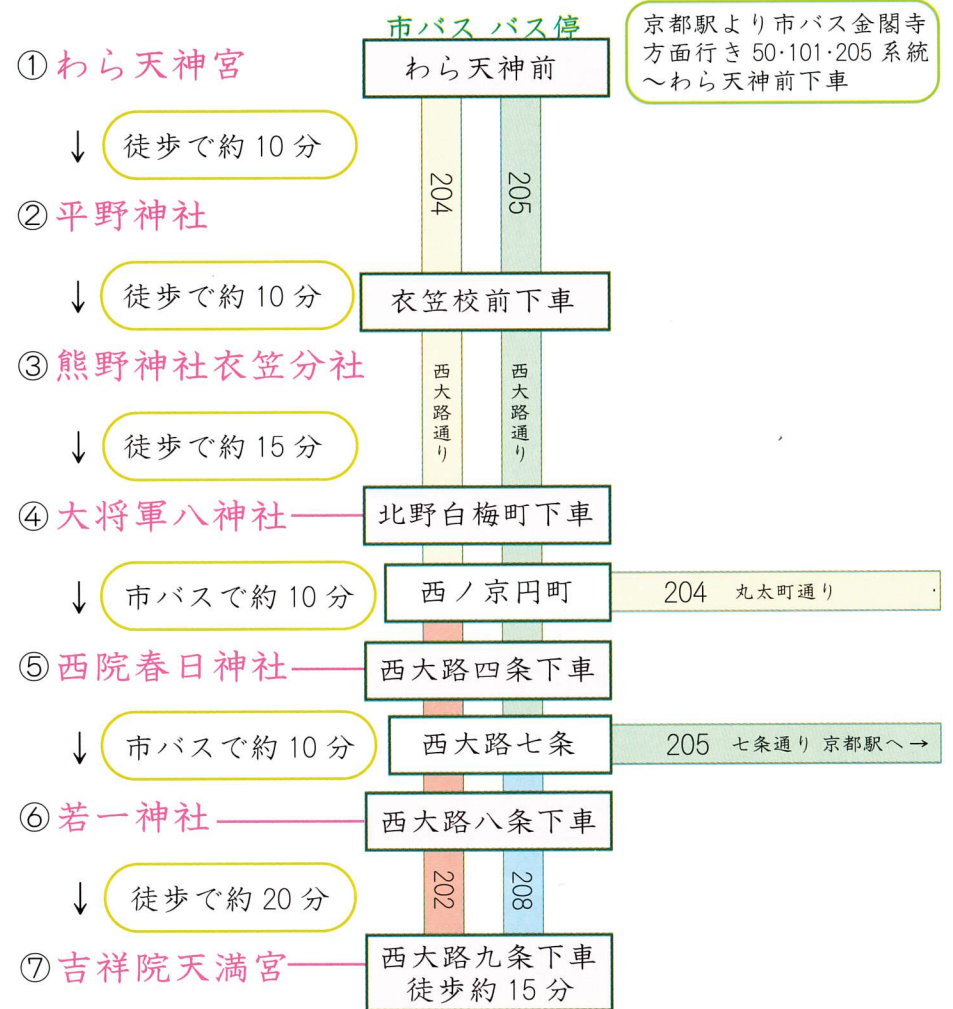


市バス バス停

次頁に各社詳細地図があります



西大路七福社ご利益めぐり 北から南へのコース例



記念品引換えを忘れずに(引換券が必要です)
前もって引換券に名前住所等を記入していただけると
スムーズです

吉祥院天満宮より JR 西大路駅まで徒歩約 15 分

